

実態把握と目標設定	• 学部	高
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<p>■知的障害、□自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（21トリソミー）</p>
	• 対象児童生徒の課題	<p>姿勢が日常的に悪く自らの運動量もあまりみられない。 側弯もみられるので今後の生活に影響を及ぼす恐れもあるため、極力支障が出ないようにする必要がある。</p>
	• 自立活動の目標	<p>正しい姿勢の保持や適度に体を動かす活動を行い、運動量を増やす。</p>
	• 上記目標に対応する区分	<p>健康の保持      心理的な安定      人間関係の形成 環境の把握      <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">身体の動き</span>      コミュニケーション</p>
	• 支援の手立て	<p>座位保持状態での姿勢の修正や、バランスボールを使って体幹を鍛えたり、体を動かしたりする活動をする。</p>
学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<p>現状でも椅子で座位状態になると綺麗な姿勢を保つことが難しくすぐに楽な姿勢になってしまう。体幹を鍛えたり自ら運動をしようとしたりする意識の確保が課題である。</p>
	<p>• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等</p>	<p>自立活動の時間にはある程度の粗大運動や手を動かしたりはできているが、その他の時間に身体を動かしたりバランスボールに座る時間の確保が難しい。 引き続き座位姿勢の修正を行い定着の方向に向ける。</p>
グループ討議	<p>全校研究②学年・クラスで検討 • 参考になった支援方法等</p>	<p>現在更衣の際にはイスに座った状態での更衣であるが、少しでも体幹の強化や体の動きを取り入れるために、安全の確保に努めながら立位姿勢での更衣に取り組んでいく。</p>
2学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化	<p>立位状態での更衣が定着してきた。支援を受けながらではあるが、手で支えながら立位を保持した状態で足を上げズボンを着脱したり、できる範囲で服をきたりと体を動かすことが増えた。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員自身の成果や課題</li> <li>・ 効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<p>立位状態を保持しながらの更衣を促すことによって、バランスを自分で取りながら、運動量を増やすことができました。また、ある程度の負荷をかけた環境の提供により体幹の強化を図ることもできた。安全の確保には留意が必要であった。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめ</p>	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<p>取り組みによって、正しい姿勢（座位・立位）を保持できる時間の増加や、体を動かす活動量の増加につなげることができてきた。成果が出つつあるので引き続き継続して取り組んでいく必要があると考える。今後は出来るだけ能動的に取り組めるようになることを期待する。</p>

実態把握と目標設定	• 学部	高
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<p>■知的障害、□自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、</p> <p>□情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、</p> <p>□その他（ ）</p>
	• 対象児童生徒の課題	<p>課題：体幹が弱く、長時間の座位保持が困難。身体の使い方（特に細かい手指の運動や、歩行など）や対象物への注視が苦手で、作業学習や座学などが難しい。集中が難しく、常に周囲が気になって注意散漫になることがある。</p>
	• 自立活動の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 登校後、靴の履き替えや更衣を自発的に行う気持ちを持つ。</li> <li>• 昼食時は、姿勢や食べる速さに気を付けながら、食べこぼしを減らす。</li> <li>• 日常の動作を無理なく行うことができるように、筋肉の緊張をやわらげる。</li> </ul>
	• 上記目標に対応する区分	<p>健康の保持      心理的な安定      人間関係の形成</p> <p>環境の把握      <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">身体の動き</span>      コミュニケーション</p>
	• 支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 首や肩周りの筋が筋緊張を起こしやすく、猫背になりがちなので、その都度筋肉の緊張をほぐしながら、よい姿勢になるよう指導する。</li> <li>• 自立活動の時間に、バランスボールを使って体幹を鍛えるようにする。</li> </ul>
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<p>1学期は授業中の集中を保つため、身体の緊張をほぐすことに重点的に取り組んだ。末梢の手指のマッサージなども取り入れ、本人がリラックスできるようにしたが、集中できる時と散漫になる時の差が激しかった。授業に対するモチベーションも関係していると思われるので、2学期は心身両面からのアプローチに努めていきたい。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 教員自身の成果や課題</li> <li>• 効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<p>身体の緊張をほぐすために、様々なアプローチを試みたが、なかなか効果は実感できなかった。本人がリラックスできるような身体操作などをルーティーン化していきたい。</p>

グループ討議	<p><u>全校研究②学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参考になった支援方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>なるべく言葉がけの量を増やし、頑張りをほめる。</li> <li>PT による施術の様子を動画で記録し、次年度へ引き継げるようにする。</li> </ul>
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<p>2学期も、特に首や肩まわりの筋緊張が高まりやすい状態が見られた。必要に応じて筋緊張をほぐす支援を行ったが、緊張の程度や集中の持続には日によって大きな差がみられた。姿勢が崩れやすい場面も多く、身体の使い方や注視のしにくさが学習活動への取り組みに影響していた。今後も心身のリラックスを促す関わりや体幹づくりを継続し、動作と心理的面での安定につなげていきたい。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員自身の成果や課題</li> <li>効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<p>適時、身体の緊張をほぐすアプローチを続けたが、効果が持続しにくく、大きな変化を実感することは難しかった。これは1学期と同様の課題であり、引き続き身体操作やリラックスにつながる関わりをルーティーン化する必要がある。また、心身両面からのアプローチが必要であると感じており、今後は活動前後の「心身を整える時間づくり」も意図的に取り入れていきたい。</p>
まとめ	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<p>様々なアプローチを試しているところだが、卒業後の進路先でストレスをため込まないように、本人が比較的リラックスできている方法の情報交換を行っていく。</p>



2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<p>教員に助けを求めることなく、自分で三角巾を結ぶことができるようになった。また、身に着けている様子も鏡で確認するようアドバイスすると、身だしなみを整えることもできるようになってきた。自分でできるようになっていることが嬉しい様子で、意欲につながっているようである。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<p>できるようになってきているので、毎日確認することを忘れがちであった。できる限り毎日チェックするように心がけたい。エプロンセットをしわくちゃにして袋にしまうので、丁寧に畳んで袋に片づけることを次の課題とし、手本を見せたり、助言したりし、適宜褒めることで意欲につなげたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・頑張る姿をしっかりと確認し、褒めることが「次も頑張る！」と意欲につながっている様子だった。できていることを一緒に喜ぶことも効果的であった。</li> </ul>
まとめ	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<p>エプロンや校内着等の服もきれいに畳んで片づけるなど、今後も継続して練習していく必要がある。教員の言葉かけがないと意識をすることが難しいので、適宜言葉かけの必要がある。今後、一人で取り組めるように、手順表などの支援が必要である。</p>

実態把握と目標設定	• 学部	高
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<input type="checkbox"/> 知的障害、 <input type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <b>■その他（けいれん重積型急性脳症 精神発達遅滞 てんかん）</b>
	• 対象児童生徒の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 椅子に一定時間座ること</li> <li>• 姿勢の保持</li> </ul>
	• 自立活動の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 授業中に一定時間椅子に座って授業を受ける</li> </ul>
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持      心理的な安定      人間関係の形成 環境の把握 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">身体の動き</span> コミュニケーション
	• 支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自立活動の時間にファシリテーションボールを使って姿勢を保持するための筋力やバランス感覚を身につける。</li> <li>• 座学の授業中に担当の教員が体調やタイミングを見ながら椅子へ座るよう促し、授業中は椅子に座るという習慣をつける。</li> </ul>
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分の椅子に座ることは少ないものの、キャスター付きの椅子に5分ほど座って軽く左右に揺れながら授業に参加できる日もあった。</li> <li>• 暑い日が続くことで眠気が強く、覚醒して授業に参加する活動時間が減っている。</li> </ul>
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自立活動のファシリテーションボールを使った姿勢の保持は成果が出ているように感じる。実際、ファシリテーションボールに乗っているとき、最初は腰を支えていなければ難しかったのが、現在は肩を支えることでバランスをとれている。</li> </ul>
グループ討議	全校研究②学年・クラスで検討 • 参考になった支援方法等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 座って楽しめることを増やしていく。</li> <li>• 遊びを通じて、筋力やバランスを身に付けていく。</li> <li>• ブランコ、トランポリンなどを試してみる。</li> <li>• 2学期はPTに見ていただく予定。</li> </ul>

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服薬の変更や暑さの減退により、日中眠ることが激減した。</li> <li>・変わらず日常的に横になることが多いが、以前よりも切り替えが早くなり、身体を起こす際の動きも素早くなった。</li> <li>・お茶を飲むときは一定時間椅子に座って飲むことができるようになった。</li> <li>・授業中に iPad のタッチをするときは自分から椅子に座って取り組めるようになった。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日歩くことで体幹が鍛えられ、歩行が安定してきた。本人も歩くことが楽しい様子だった。</li> <li>・自立活動のファシリテーションボールを続けることで、うつ伏せではあるが一人で弾み楽しむことができるようになった。</li> <li>・PT 曰く、低緊張気味だが筋力や力もあるので、座れないのは気持ちの問題とのことだった。</li> <li>・ブランコは椅子と同じで2、3秒で移動してしまった。</li> <li>・トランポリンは数分間とぶことができた。</li> </ul>
まとめ	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<p>課題：1人で一定時間座ることは特定の活動のみ行えているが、疲れたときなどは床に寝転がってしまう。</p> <p>目標と支援の方法：来年度も継続して一定時間椅子に座ることを目標とし、本人が楽しんで行える歩行やファシリテーションボールを使った活動を取り入れながら、体幹や体力をつけていく。これらの活動を通して、姿勢の保持や日常生活での動作がよりスムーズに行えるよう支援する。</p>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員自身の成果や課題</li> <li>・ 効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ST の先生にお願いはしているが、2学期内は予定が合わなかったので3学期に実行する予定。→3学期実施することができた。ストローでコップの水を吹く練習、早口言葉の練習などを行った。継続して練習する予定。</li> <li>・ 本人の発音はだんだんと聞き取りやすくなってきているように感じる。</li> </ul>
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気持ちが焦って早口になってしまうので、落ち着いて話したり、行動したりできるようにする。口の体操を継続的に行い、人前で話すことに自信をつけてもらいたい。</li> </ul>

実態把握と目標設定	• 学部	高
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	□知的障害、□自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 ■その他（脳原性移動障害）
	• 対象児童生徒の課題	左手に麻痺があるものの、自分のことは自分でできる。 しかし、時間がかかるため教員の介助が必要な場合がある。
	• 自立活動の目標	将来的には就職を見据え、CF コースも現在検討中のため、自分でできることは時間内にできるようになる。また、支援が必要な場合は自ら依頼できるようになる。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持          心理的な安定          人間関係の形成 環境の把握 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">身体の動き</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">コミュニケーション</span>
	• 支援の手立て	本人がひとりで活動できるよう環境整備を行う。（ロッカーの場所、机の位置等） どこまで教員が介助するのか等、事前に本人と話をしておく。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	移動やトイレ等介助が必要な場面でも、ここまでは自分で、ここからは介助が必要と自分で依頼することができていた。自立活動で行っているストレッチにも効果を感じている。CF コースも希望しているので、少ない支援でできることを増やすことが課題、目標である。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	給食献立を書く係なので、ひとりでできるよう、ホワイトボードやペンの置き場を本人が取りやすい場所に設定した。また、PT から教わった上肢と下肢のストレッチを体育や自立活動の時間に行うことで、明らかに両肩、肩甲骨の可動域が広がったので継続していきたい。
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> • 参考になった支援方法等	学年が変わり支援者が変わった後も支援が継続できるかどうかがいちばんの課題だという意見で一致した。2学期の取り組みを動画撮影（本人のタブレットで）し、継続しやすいような形で残す。また、今後も本人と相談しながら取り組みを続けることを大事にしたい。

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	CF 生となり、実習等もありかなり多忙になった。更衣や移動等ひとりで行うように見守るが、授業に遅れないように、自分でできることも手伝わざるをえない状況がある。寒くなり、血行が悪くなる時期なので体育や自立活動の時間にストレッチを継続している。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	本人より頭痛、耳鳴りの訴えがあった。保護者と受診したところ異常はなく、血流が悪いからとの見立てであった。PT から教わった上肢と下肢のストレッチを体育や自立活動の時間に行うことで、体全体の血流も促進されるので、よりストレッチの時間を確保したいが難しい。
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	PT から座ったままの状態のできるストレッチについても教わったので、少し時間があるときにそういった取り組みを続けていけたらと考える。教員が常にそばで支援することには限界があるため、一人で取り組める体操、活動などの工夫が今後の課題となる。



1学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の様子、変化、課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歯磨き粉は親指を添える位置を意識して握らせると、握りにくいのか、出しすぎることは少なくなった。ただ、教員と一緒にしないと、シールの所に親指を合わせようとしないので、自分で合わせられるようになることが今後の課題である。</li> <li>学校生活や教員に慣れてきたということもあるのか、甘えやかまって行動が増えるようになった。以前は椅子に座って授業を受けることが出来ていたが、特定の授業は椅子に座らない。複数の先生と試行錯誤しながら座るように促すが、なかなか座らないのが現状である。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員自身の成果や課題</li> <li>効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日見ることや、一緒にやってあげることができていないので、課題となっていることは毎日取り組むよう心掛ける。</li> <li>後ろがすごく気になって、半身になることが多いので、席を後ろにすることで、自然と前を向けるようになったので、教員が立つ時も、横ではなく前に立つよう心掛け、前を自然に向かせるようにする。</li> </ul>
グループ討議	<p><u>全校研究②学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参考になった支援方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の担任と情報を共有し、複数で見えるようにする。</li> <li>集中が切れそうだなと感じたら、こちらから先に声かけをする。</li> </ul>
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員と一緒にシールの位置に親指を合わせ、声をかけながら一緒に握ると、少量ずつ出すことができる。一人ではまだ難しい様子である。</li> <li>2学期に入ってからは、椅子に座り、授業を受けることができるようになった。後ろを気にすることも少なくなり、前を向いて授業を受けることができていたが、足を組んでしまうことがよくある。また、気持ちののらない授業では、トイレに行く回数が増える。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員自身の成果や課題</li> <li>効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食時に、他の生徒を担当していることもあり、毎回見ることができていないので、担任の先生方に共有をし、見てもらっている。</li> <li>1学期と比べて、生徒への関わりや声掛けを増やし、怒るのではなく、寄り添い促すことに意識をすると、問題行動が少なくなった。</li> </ul>

まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> ・児童生徒の来年度の目標、課題等	・歯磨き粉を教員が出し、歯ブラシですくえるようになる。また、自分で歯をしっかりと磨けるようになる。 ・今年度の目標を継続して、正しい姿勢で授業を受けることができるようになる。
-----	---	--



2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食の際、自分でお椀やスプーンを使って喫食する際、手指を動かす機会が増えたことで、少しずつこぼさなくなってきた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導の時間が確保しにくい。型はめなどは破損しやすいので丈夫な何かに代える必要があるとわかった。</li> </ul>
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き継続して型はめやファシリテーションボール、マッサージなど身体に対するアプローチを行う。</li> </ul>



グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> ・参考になった支援方法等	・障がい特性を考慮したうえで、指導方法を決定した方がよいとアドバイスをいただいた（パターンを決めすぎるとそれに固執してしまう可能性もあるため）。
2学期の振り返り	・児童生徒の様子、変化	①公共の場で更衣をする場合でも恥ずかしくないような更衣が、言葉かけをしなくても継続してできている。 ②せっかくたたんでも鞆に入れる時に押し込んでいた。ことばかけをすると丁寧に鞆に入れられることが増えてきた。
	・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等	成果：公共の場で更衣をする場合でも恥ずかしくないような更衣ができるようになった。 課題：せっかくきれいにたたんでも鞆に入れる時に押し込んでいるので、きれいにたたむことの指導の前に、たたんだ衣類をたたんだ状態で入れることを指導している。 実践：鞆を手に持った状態で衣類を入れようとするので、机上等に置いた状態で衣類を入れるように指導している。
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> ・児童生徒の来年度の目標、課題等	・衣服の縫い目やしわを意識して、丁寧に衣服を畳む。